

APEC 女性と経済フォーラム 2013 をふりかえって (民間出席者からの報告)



林 文子さん（横浜市長）

今年も APEC 女性と経済フォーラムで、女性が社会において活躍するための横浜の成功例について基調講演の機会をいただき、大変光栄に思います。今回で3回目の参加になりますが、年々、議論が深まっていることを実感しています。もはや、理念を掲げるだけではなく、それを実現するために何をしていくべきかという具体的な行動を起こす時期を迎えています。ハイレベルパネルにおいて、インドネシアのマリ観光創造経済大臣やバービア前米国国際女性問題担当大使をはじめ各国の皆様とともに、基調講演を行いました。保育所待機児童対策で、公民一体となった多様な保育サービスの充実、保育コンシェルジュの配置などによって、横浜市が今年4月1日に待機児童ゼロを達成したこと、それが成功事例として日本国内に波及していることを報告しました。また、男女ともに働きやすい社会の実現、女性が意思決定を担うポジションにつく必要性について訴えました。

今後も、女性がいきいきと輝けるよう、あらゆる施策を講じ、「日本一女性が働きやすい、働きがいのある都市、横浜」を実現していきます。そして、私たちの取組を国際社会に発信し、世界の女性の活躍のために貢献していきます。



笠 章子さん（大塚製薬株式会社執行役員広報部長）

この度は、インドネシアのバリ島で開催された 2013 年 APEC 女性と経済フォーラムに参加させていただき光栄でした。「経済の推進役としての女性」がメインテーマの中、「インフラと人的資源」のサブテーマのセッションのモデレーターをさせていただきました。セッションには民間で活躍する米国、インドネシア、および、日本企業で重責を担う女性たち、また、チャイニーズ・タイペイからはクワン行政院経済建設委员会主任委員（大臣）が参加され、女性の社会進出を活性化することが経済の成長および豊かな生活の醸成に貢献するなど活発な議論が交わされました。最終的にまとめられた提言書にマインドセットの重要性が盛り込まれましたが、大業をやり遂げる女性たちには確固たる社会貢献のビジョンがあり、その情熱で困難も乗り越えることができることを改めて学びました。兎に角、遅れがちといわれる日本のダイバーシティですが、今回日本から初の女性大臣（森まさこ氏）参加や「待機児童ゼロ」をやり遂げられた林文子市長、塚本さんなどの女性社長が参加されるなど、わかりやすいアベノミクスとともに日本の取り組みは各国の記憶に残るものとなったと思います。最後に内閣府、外務省、経済産業省の関係各位の皆様方のご配慮に心より感謝申し上げます。



塚本 良江さん（NTT コムオンラインソリューション株式会社代表取締役社長）

今回初めて、APEC 女性と経済フォーラムの「女性と ICT」のパネル、政策パートナーシップ及びハイレベル政策対話に参加させていただきました。パネルでは、女性活躍のために ICT をどう整備浸透させていくかから始まり、導入が進んだ後、実際の企業活動で成果を出すには・・・その成功事例、課題まで議論が及びました。

また、日本は米国とならび、ICT も制度も整備が進んでいます。が、一方でM字カーブといわれる第一子出産後に働くのをやめる方が多いこと、また企業の中で管理職層、リーダーシップ層の方が少ないことが目立っていました。発展途上国などでは、経済的理由から女性が社会で活躍するための間口は狭いけれども、一度その場に入ると、リーダーシップ層に入る女性は少なくありません。どうしてこのような状況が起きているのか？テクノロジー環境や制度だけでは改善できない、長く培われてきた男女の役割回りに関しての価値観など心理的なものが強く影響しているのではないかと。この問題は政策パートナーシップでも議論され、女性活躍に向けて、女性も男性もマインドセットを変えていくことが重要であるという提言を盛り込むことができました。

4日間を通し、様々な国の方の話を聞き、意見交換することで、今後考え続けるべき課題に気づかせてもらい、私自身の意識を大きく向上させることができました。有意義な経験をさせて頂いた事に感謝すると同時に、会社の中でも、また社会に向けても自分でできる情報発信や対話は行い、その進展に少しでも貢献していければと思っております。



石戸 奈々子さん（NPO 法人 CANVAS 理事長）

バリ舞踊にガムランの音色。甘みとコクのある数々の料理。インド洋の青い輝きに心地よい風。最高の「おもてなし」を得て参加した APEC 女性と経済フォーラム。正直、これまで「女性」ということを特に意識した活動をしてきた訳ではありません。振り返れば、女性だから得たメリットもデメリットもあったと思います。しかし、それもまた個性の1つと捉え、自分の得意なことを活かし、不得意なことは他の人に助けてもらいながら、生きてきました。

そして今回感じたことは、男女問わず「どう生きて行くのか」を自分で考える場こそ大事なのではないかと思います。

私は、10 年前に CANVAS という NPO 法人を設立し、子どもたちの創造的な学びの場をつくるという活動を続けています。学校、地域、家庭がオープンにつながり、背景も能力も異なる子どもたちが新たな価値を生み出すことができる。そのような場づくりです。

小さい頃から、多様であることの尊さを知り、想いをカタチにすることの素晴らしさを体験する。協働することで「できること」の可能性が無限大に広がることを実感する。それこそが、「ガラスの天井」を突破する原動力になるのではないかと。神秘の楽園バリ島でその想いを新たにしました。



佐々木 美弥子さん（ユニ・チャーム株式会社グローバル人事総務本部海外グループシニアマネージャー）

この度、インドネシア、バリで開催された APEC 女性と経済フォーラムで、「インフラと人的資源」セッションにてパネリストを務めさせていただきました。ユニ・チャームグループは生理用品や紙おむつの製造販売を主力事業とし、グローバル展開を行っておりますが、①商品そのものや女性の雇用創出によって女性の社会進出の後押しをしたいと考え、実行していること、②全社員が、高い目標を実行に落としこみ、主体的に時間を有効活用する「SAPS 経営」というマネジメントモデルの実践を通じて能力開発を行い、結果女性リーダーも成果を認められていることなどを紹介させていただきました。今回、自社の事業に対する責任や誇りを改めて感じるとともに、世界各国で使命感と行動力をもって活動されているオピニオンリーダーの方々とは交流させていただくことができ、大変刺激を受けました。帰国後、社内イントラネットに掲載された報告を見て、問題意識を持った各国メンバーからアクセスがあり、目線を高く持ち、まず具体的な一石を投じていくことが、遅れている日本のダイバーシティ推進にも繋がると話合っています。内閣府、経済産業省、外務省、日本代表団の皆様には心から御礼申し上げたいと思います。素晴らしい機会をありがとうございました。



清藤 美里さん（パナソニック株式会社アプライアンス社ビューティー・リビング事業部商品企画グループビューティー商品企画チーム参事）

APEC 女性と経済フォーラムにて女性の感性と視点を新市場開拓につないでいる、という点を評価頂き、若手女性イノベーター賞を授与されました。今回、初参加だったのですが、初心者目線で感じた事について触れさせて頂きたいと思います。当たり前の事だとは思いますが、改めて感じたのが、女性労働人口を今回のフォーラムのタイトルにもなっている「経済の推進役としての女性」にする為には、国の状況/環境/教育/文化/置かれているフェーズによって取るべき施策が明らかに違うということです。日本では、女性の管理職比率を△△%に上げる、などが目標指標として掲げられる事が多いですが、そもそも女性が経済を牽引する労働力だ、と認識している女性がどれだけいるのでしょうか。法律や制度を整えるのはもちろんですが、やはり日本においては意識改革が根本的に必要不可欠だと感じました。またインドネシアのマリ観光創造経済大臣が語っていた「Double Burden Syndrome」という言葉もまさしく女性の社会進出を妨害するキーワードだと感じました。Family Obligation/Business Obligation の二つの Burden を抱えている女性が社会に貢献するには、男女双方の意識改革が必須であると共に、二つの負荷を少しでも減らす施策も同時に期待されると考えます。

今回フォーラムに参加されていた女性達は、自分の力、周囲や家族の理解と支援、会社の制度、地域の制度などを活用しながら経済貢献をしている女性ばかりでしたが、やはり現実的にはまだまだ経済貢献できていない/したいのにできていない女性が多いのも事実です。よって、まずは自分の出来ることとして、自ら、職場の女性そして、男性に対して多様性溢れる労働環境を作る為のマインド醸成を行い、日本経済活性化につなげる行動を実践して参りたいと思います。最後にフォーラムに参加させて頂く機会を与えて下さった内閣府の皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



鮫島 弘子さん（株式会社 andu amet 代表取締役兼デザイナー）

準備ができ次第掲載します。